

岩屋村サマーキャンプ

■ 事業のねらい

洞爺の大自然を舞台に、異年齢での集団生活や自らチャレンジする活動をとおして、思いやりやコミュニケーション能力を高めるとともに、環境に対する気づきや環境保全に向けた行動力を高める。



- 実施日 平成23年8月6日(土)～8月10日(水)(4泊5日)
- 参加対象 小学5年生から中学3年生(40名)
- 参加実績 参加者: 38名
 小5=20名、小6=13名
 中1=2名、中2=2名、中3=1名
 男子=23名、女子=15名
 運営協力者: 学生ボランティア4名、一般ボランティア1名
- 備考 活動場所: 北海道立洞爺少年自然の家
 後援: 喜茂別町教育委員会、京極町教育委員会、倶知安町教育委員会、
 壮瞥町教育委員会、伊達市教育委員会、洞爺湖町教育委員会、
 豊浦町教育委員会、真狩村教育委員会、ニセコ町教育委員会、
 留寿都村教育委員会、札幌国際大学

1 事業実施の背景

様々な地球規模の環境問題がクローズアップされている中、環境問題について自ら考え、主体的に環境に配慮して行動できる意欲や態度を育成していくことが課題とされている。

本事業は、夏の洞爺湖周辺の自然をフィールドとし、グループでの課題解決学習をとおして、コミュニケーション能力を高めながら、環境に対する気づきや環境保全に向けた行動力を高める機会とするものである。



2 プログラムデザイン

1日目 8月6日(土)であいの日													
道南バス	13		14		15		16		17		18		
・室蘭港発(10:40)→〔乗換え〕壮瞥役場着(12:45)→岩屋着(13:06) ・札幌駅発(10:50)→どうや水の駅着(13:09)	受付 13:30~14:00		受付		なかまつくり どんな仲間に出会うかな		ミーティング チームでルールを決めよう		夕食 入浴		ウェルカムパーティー		
											ふりかえり	就寝準備 室内泊	
2日目 8月7日(日)チャレンジの日													
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
起床洗面清掃	朝食	テント設置	いかだづくり① チームでどんなオリジナルいかだを作るか考えよう		昼食		いかだづくり② チームのオリジナルいかだは完成できるかな		夕食 空き缶でご飯を炊こう キャンプといえばもちろんあの料理		入浴	ふりかえり	就寝準備 テント泊
3日目 8月8日(月)冒険の日													
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
起床洗面清掃	朝食 ホットサンドを作ろう	いかだ体験 冒険のはじまり! いかだは浮かぶことができるかな		昼食		岩屋村調査① 自然を調査しよう 岩屋村でどんな発見ができるかな		夕食 トッピングうどんパーティー		入浴	ミーティング ふりかえり	就寝準備 テント泊	
4日目 8月9日(火)ふりかえる日													
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
起床洗面清掃	朝食 焼き魚定食を作ろう	岩屋村調査② 調査したものでオリジナルの岩屋村図鑑を作ろう		昼食		ミーティング チームで発表の準備をしよう		フェアウェルパーティー 魔法の鍋で料理しよう おいしい料理はできるかな		夕食 チームで思い出を発表しよう		入浴	就寝準備 テント泊
5日目 8月10日(水)まどめの日													
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15				
起床洗面清掃	朝食 牛乳パックで料理をしよう	テント撤収	まとめ みんなにとってどんなキャンプだったかな		昼食		閉講式	道南バス 解散 13:00		・岩屋着(13:29)→〔乗換え〕壮瞥役場着(13:54)→室蘭港着(16:40) ・どうや水の駅発(13:24)→札幌駅着(15:45) ※天候等によって、内容を一部変更する場合があります。			

■ アクティビティについて



■ 意図

- 自然体験活動や野外炊飯を通じて、環境問題に対する興味や関心、知的好奇心を育み、環境に配慮して主体的に行動する意欲や態度の育成に努めた。
- 話し合いや発表の機会の充実を図り、多様な集団の中で、互いの考えや気持ちを認め合い、自分の思いや考えを適切に表現させるようにした。

■ 留意事項

- 自然体験活動や野外炊飯を実施することから、指導者による事前研修を行い、アクティビティにおける参加者の安全管理を徹底した。

3 活動の様子



■ 当日の様子

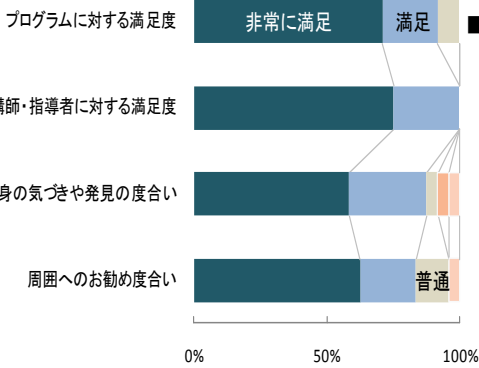
初日、「アイスブレイクゲーム」や「チームミーティング」を実施。5日間を共に過ごす仲間と環境学習の課題やチームの目標を設定した。

2日目は、「テント設営」や「いかだづくり」「野外炊飯」を実施。前日に確認したチームの課題や目標を達成させるために、仲間と力を合わせ時間内に作業を進めた。

3日目は、チームで完成させた手づくりの「いかだ」に乗り、仲間と作り上げた達成感を味わった。また「岩屋村調査」では、湖と森において、生物の採取や植物観察を行い、施設周辺の自然環境や環境保全について学んだ。

4日目は、「フェアウェルパーティー」を実施。チームごとにこれまでのキャンプを振り返り、それぞれの思いを共有した。

最終日、「岩屋村調査」をもとに、チームごとにオリジナルの図鑑を完成させた。



■ 参加者の声 (アンケートから)

- 「1人でも多くの子と友だちになれてよかった」
- 「親友が2人できました」
- 「始めは不安だったけど、思ったよりとても楽しくてよかった」
- 「イカダづくりをまたしたい」
- 「イカダ体験が楽しかった」
- 「牛乳パックをつかった料理がおいしかった」
- 「洞爺の自然について学ぶことができた」
- 「洞爺湖の環境を大切にしたいと思った」

4 事業評価

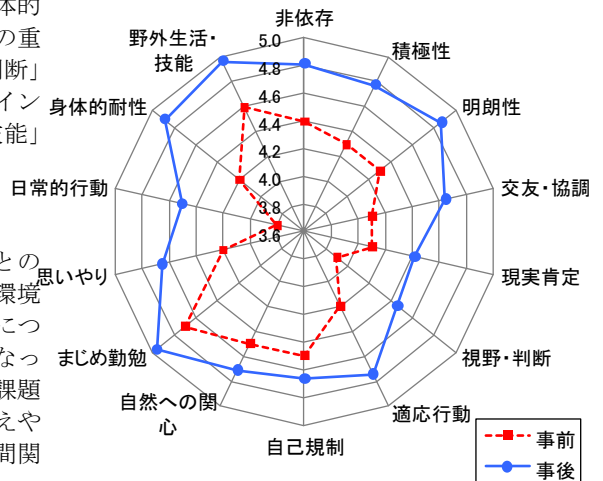


■ 評価方法・重点

本事業は、自然の中での様々な体験活動や異年齢での集団生活をとおして、コミュニケーション能力を高めながら、環境に対する気づきや環境保全に向けた行動力の向上を目的としている。そのため、「交友・協調」「視野・判断」「思いやり」「自然への関心」「野外生活・技能」「日常的行動」の向上について評価の重点を置いた。

■ 参加者の変容【IKR調査結果】

全項目で向上が見られたが、最も向上が見られたのは、「日常的行動」「身体的耐性」の0.8ポイントであった。評価の重点に置いた「交友・協調」「視野・判断」は0.6ポイント、「思いやり」は0.5ポイント、「自然への関心」「野外生活・技能」は0.3ポイントの向上が見られた。



■ 結果の分析・考察

4泊5日の自然体験活動や仲間との共同生活をとおして、参加者は自然環境や環境問題に関心を持ち、環境保全について日常的な行動が取れるようになったと考えられる。また、仲間と共通課題の解決に努力したことで、互いの考えや思いを認め合い、思いやりのある人間関係が形成されたと思われる。

5 まとめ



■ 成果

- 「テント泊」や「野外炊飯」など、自然環境を活用した異年齢での共同生活をとおして、環境に対する気づきや環境保全に向けた行動力を高めることができた。
- すべての活動を通じて、チームを意識させて行動させたことから、参加者は、互いの考えや思いを認め合い、豊かな人間関係の形成を図るコミュニケーション能力をはぐくむことができた。

■ 課題・今後の方向性

- 主催事業参加者のリピーターが増えてきているので、様々な体験活動を深化させることができるよう、アクティビティの開発をしていく必要がある。